

地域住民と福祉施設が顔の見える関係になり、成する「永谷地区社会福祉協議会（若林諭会長）がさまざまな場面で連携につなげようという取り組み。発案し、9月の初会合には約40人が参加。住民の思みが、横浜市港南区で進められている。住民らで構 いや施設が抱える課題を共有した。（尹 貴淑）

住民と施設つながれ

地域力

担う人々

市芹が谷地域ケアプラザ（同区）で開かれた「永谷地区福祉施設連絡会」には、高齢者や障害者が利用する施設の関係者と、地域住民らが集まった。住民の声掛けでこういった会合が開かれるのは珍しいといひ、若林さんは「話し合ひができるベースを作ること。」

永谷地区連絡会が初会合

顔の見える関係求め

地区の一員として意見を聞き、話ができる集まりにした「目的を説明する。」

港南区北部にある同地区には、多くの福祉施設がある。地区社協副会長で、自身も障害者の事業所を運営する磯田巧さんは「自宅周辺を歩くと、住宅街に以前はなかった福祉施設ができていると気づく」と話す。だがそれぞれのつながりは薄く、連絡会を通じて「地域で問題を共有していければいい」といふ。

「障害児も地域で育ってほ

しいと思っている。姿を見かけたら見守ってほしい」「利用者は職員に感謝するばかりで、本人が感謝される機会がない」。各施設は、地域とどうつながりたいかなどについて発言。「認知症サポーター

の研修を受けても、それを生かす場がないという住民がいる」といふ声に、「運営している施設に来てもらうことができるかもしれない」というアイデアが出るなど、つながりの芽も生まれた。各グループの意見発表も行われ、話し合いの内容を各施設で共有した。

会合が、悩みを解決するきっかけになった施設もある。



地域住民と福祉施設関係者らが話し合った「永谷地区福祉施設連絡会」＝横浜市港南区

リハビリ型サービス「レコードブック港南岸が谷」は、昨年6月に開設。地域との付き合いがないため、ごみの出し方が分からず、所長の斉藤一美さんがずっと自宅にごみを持ち帰っていた。斉藤さんは「とてもいい会議だった。これまで地域とつながる機会がなかったが、待っているだけでは進まない。これからは

積極的に働きかけたい」と笑顔を見せる。地域や各施設が普段から顔を合わせることは、災害時のスムーズな連携などにもつながる。連絡会は今後も続ける予定だ。若林さんは「地域とのやりとりはもちろん、施設同士の間もつながりもつくっても